

2017-1-04

ふじさわ・九条の会ニュース

NO47



発行人 ふじさわ九条の会 事務局長 島田啓子 0466-34-5843

<http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

サンパール広場で、藤沢市議会で、国会前で 武力行使容認の 南スーダンへの自衛隊派遣反対の運動広がる

マンや市民に取り囲まれ、新しいアピールの方法として認識されたのではないかと思います。

(島田)

「ふじさわ・九条の会」として

藤沢市議会に自衛隊撤退の請願を提出

12月市議会に対し、「ふじさわ・九条の会」として南スーダンからの撤退問題で、次のような請願書を提出した。「日本の70年の平和国家としての信頼を汚し、戦闘行為を伴う駆け付け



警護の任務によって命を落とす危険性のある自衛隊の南スーダンへの派遣を止め、直ちに

撤退することを求める意見書を、市議会として政府に提出していただくこと。」

本会議では、14票対21票で不採択となったが、民主クラブ7名、共産党4名、市民クラブ2名、市民派クラブ1名、計14名の議員が賛成した。写真は、会の事務局次長の小林が議会で意見陳述をしているところ。

なお、当会の請願の他にも、南スーダンからの自衛隊撤退問題で、「不戦のちかい 平和行動」と「新日本婦人の会」から陳情が出されていたが、不承承になってしまった。(小林)



4野党も参加

11・3ふじさわ・不戦のちかい 平和行動

自衛隊の南スーダン派遣が12月に迫ってくる中、「ふじさわ・不戦のちかい 平和行動」実行委員会では、11月3日に派遣反対の緊急アクションを行いました。天候にも恵まれ、100人を超える市民が参加し、湘南太鼓の賑やかなオープニングのあとは、自由党、民進党、社民党、共産党の4野党の現及び元国会議員たちがステージに並んで固い握手をかわし、野党共闘をアピールしました。戦争法を廃止、立憲主義を取り戻すためには、何としても市民と野党が共闘して安倍政権の暴走を止めなければなりません。寂空さんの津軽三味線演奏や市民と議員さんのスピーチの最後はモブ鍋田さんのジャンベのリズムに合わせたコールで盛り上がりました。

同時進行の「美脚フラッシュモブ」は何か所か場所を変えてのポーズのたびに大勢のカメラ

<南スーダン問題で防衛省に要請行動>

—防衛省担当官と面談—

11月3日の不戦の誓い平和行動の集会決議をもって7日に防衛省に行き、新たな部隊の派遣をやめ、非軍事の人道支援を強化するという内容の防衛大臣あての要請書を提出しました。

その時の防衛省担当官とのやりとりは、下記の通りでした。

面談日時～11月7日、午前10時～10時半、
衆議院第一議員会館第6面談室

当方～7名 防衛省～2名（統合幕僚監部参
事官、地方企画室陳情担当官）

質問～現在の南スーダンの状況を如何に捉えているか。

返答～キール大統領、マシャール副大統領各々の指揮命令で動いているのではなく、現地兵士の散発的、偶発的な小競り合いと考えている。

質問～マシャール副大統領は和平合意は崩壊したと言っている。また国連南スーダン派遣団から最大部隊であるケニアは撤収するし、他国部隊も撤収への動きを始めている。7月のジュバでの戦闘時は国連派遣団は文民保護に動かなかつた。

返答～11月に派遣される青森の部隊で11次となり、半年交代で約10年の現地活動となる。誤解しないで貰いたいのは、現地自衛隊は施設部隊であり、11次隊もそうである。従って道路整備等の事業を行う。道路整備中にも護衛はするが歩兵部隊を派遣する訳ではない。

返答～駆け付け警護と言っても、遠距離の所に部隊が駆け付ける訳ではなく、工事の近辺に日本人NPO等がいて、それが襲撃されたような場合に行くのである。対象は日本人であつて、他国人は想定していない。

質問～対象は日本人と言うが、今南スーダンにどれ程日本人がいるのか。大所帯のJICAは撤収した。JICAは近々復帰するのか。対象者がいなければ行く必要が無いのではないか。

返答～JICAは年内の復帰はないと聞いている。大使館員は除いて考えると、どれ程滞在しているか、外務省からあまり情報提供がなく不確かだ。

質問～自衛隊の災害救援活動を、私達は高く評価している。この新任務で隊員が現地民を射殺したらどのような扱いになるのか。隊員が射殺されたら殉死ということか。

返答～現地での交戦中の行為は基本的に派遣国の法律を適用するが、自衛隊の場合は殺害の意図を以てした場合とはともかく、誤射であれば罪に問わない。隊員の死は殉死となる。

要請～一発の銃弾も撃たず、災害救命に従事する自衛隊の伝統を破壊してはならない。強く要請する。

(吉塚)

「ふじさわ・九条の会」秋の学習会 アルマンスール氏(慶大准教授)に聴く 「シリア内戦の実相」



シリア人で、現在、慶応大学総合政策学部准教授であるアルマンスール

・アフマド先生(写真)の見せて下さった、破壊されたシリアの都市の映像は、予想以上に衝撃的でした。

歴史的な建造物や、人々の家、学校、みんな、爆撃されていきました。目の前にいる、マンスール先生の手が、その足が、触れてきた建物であり、場所です。「戦争は、殺すか殺されるか。いずれにしても負けです」と。

世界は、なぜ小さなシリアという国にこうもかわるのか、シリア人は、爆撃を受けて逃げ惑うか、殺されるか、戦うか、難民となって外国に逃げるか、道はそれしかない。若者がISに入る理由はこうした現実に対するリベンジが根底にある。簡単にはなくなならない。

「日本人は、中東に関わってはいけない。聖戦の後には、アルマゲドンなのです。」と、強く仰っていました。異なる文化の地、決して踏み込んではいけない部分は、やはりあるのだ、と強く感じました。

(A・S)

「政治のことって、身近か？」

若者参加のパネルディスカッション開催 江ノ電沿線九条の会



12月6日、江ノ電沿線九条の会では、パネルディスカッション形式で、若者の声を聴く会をやりました。パ

ネリストには、まぶしい若者が4人参加しました。

司会の『18歳選挙権を得て自民党に投票した若者が多いのはなぜと思うか？』の質問に

「自民党しか知らない人が多く、投票は知ってる顔にする」「アベさん蓮舫さんしか知らない」「選挙そのものを知らない。『投票日はいつ？え？1日しかないの？』のレベル」

「ニュース・新聞を見ない」「ネットで検索、口コミ重視」「大人が常識と思っている事を若者は知らない」

『学校で憲法をどう教わってきたか？』については「高校では必修でなく、選択するので日本史は抜ける」「小中でも現代史までいかない」「テストのために項目だけ覚えた」

「まったく印象に残っていない」等々。「授業より『はだしのゲン』を見ろと言われて、インパクトを受けた」「憲法前文を暗唱させられて、今でも覚えている」極一部の先生の努力が大きいことを知らされた。

『原発』では会場の参加者と論争に。その中で若者から一矢。「電力自由化で変えましたか？」変えた人は3人だけ。(全国では3%らしい)「思

いを行動に出来ていないのでは！」に耳が痛かった。

全体を通して《知らされていない》姿が浮きぼりに。「見えないものを見るようにするのが芸術の力」と画家の女性。真実に近づくための知恵を出し合うことが大事ではないでしょうか。

江ノ電沿線九条の会、冬のつどい参加者
文 茂木信子 写真 黒川朝子

「ハイル、トランプ」

極右集会でナチス式敬礼 次期アメリカ大統領

トランプ氏の素顔



ドナルド・トランプ氏は、ニューヨーク・クイーンズで、不動産を営むドイツ系移民の

父とスコットランド人の母との間に生まれた。5人兄妹の4番目。

裕福な家庭で甘やかされて育った。やんちゃぶりに手を焼いた父は、「ニューヨーク軍事アカデミー」に13歳の彼を送り込んだ。マンハッタンから北に100km離れた男子校だった。

そこですっかり鍛えられ、リーダーにまでなった。女性軽視発言などで物議を醸すこと度々だが、白人の中下層階級の経済的行き詰まり打破を期待して、共和党の代表にまで押し上り、民主党のクリントンを押さえて次期大統領に決定した。

政治家としては経験ゼロだが、どん底のアメリカ経済を変えるかも知れない？

トランプ氏の狙いは

日本に対する在日米軍の費用負担の増額

日本に対して米軍の駐留経費の大幅な増額を求めることは必定。安倍政権も自衛隊予算の増額を狙っている。お互いに利用しあえる関係をつくりたい。“日本と米国は共に経済的破滅国である”ことを忘れずに、両国民は対処しなければならない。

世話人 國枝 健

ー沖縄レポートー

高江で、基地建設反対の座り込みに 参加しました



9月と11月に友人と3人で沖縄県東村高江に行きました。私たちは戦隊服のコスプレでヘリパッド建設反対

の座り込み行動に参加しました。市民から色々声をかけられたり、子供と写真を撮ったりと、反響が大きかったです。11月の時は機動隊から「もうハロウィン終わりましたよね？」などと話しかけられました。

機動隊とはその他色々とお話を交わしました。

「土人、シナ人」発言もありましたが、彼らも同じ人間、普通の若者です。命令で動いているだけで、本音はうんざりの様でした。

平和の一步は対話から。現場では攻撃的な言葉の投げかけだけでなく、彼らが自分の任務に疑問を持つような対話に努めることも必要かと思えます。(写真は偶然訪れていた福島瑞穂参議院議員とご一緒に撮ったものです)

片岡 理恵

「戦争は大好き」という青年に 出会って 九の日行動の署名運動に参加して思う



南スーダン自衛隊派遣反対の署名の最中、「僕、戦争大好き」と言った青年がいた。「祖父

は軍人、家には軍服姿の写真が飾られ、毎日見て話を聞いて育った。」自慢げに話す彼の顔を見て、私は恐ろしさを感じた。反論することができなかった。こうした青年に出会って、大人の責任は大きいと感じた一日でした。

私は署名運動をして大人になった。今後も署名運動を続け、「一日一生」今日を精一杯生きることを心がけたい。

篠崎 令子

「ふじさわ・九条の会 12周年の集い」の企画決まる

本年度の「ふじさわ・九条の会」12周年の集いは、実行委員会によって、次の様な企画で行うことが決まりました。

開催日 : 4月16日(日)

場所 : 藤沢市民会館小ホール

特別企画: 舞台劇「比べてみよう いまけん(現行憲法)とじみけん(自民党改憲草案)の社会」 横浜弁護士会他

ミニコンサート: 藤沢合唱団

ピースパレード: 実施

告知板

*下記の行動、会議はどなたでも参加できますのでぜひ皆さまもご参加下さい。

<世話人会議>

1月30日(月) 18:30 ~ 推進センター

2月27日(月) 13:00 ~ "

3月29日(月) 18:30 ~ "

<9の日行動>

1月9日(月) 成人の日行動

11:30 ~ 藤沢駅南口

2月9日(木) 13:30 ~ サンパール広場

3月9日(木) 13:30 ~ "

<スタンディング行動>

★「抗議の火を絶やさない」

毎週月 12:00 ~ 13:00 サンパール広場

★「F・STAP」 毎月 第1、第4水曜日

15:00 ~ 16:00 サンパール広場

★「アベ政治を許さない 全国行動」

毎月3日 13:00 ~ サンパール広場